

第1回協議会の振り返り 及び 分科会の協議結果

- 「**摂津市地域公共交通計画**」を作成するため、交通事業者等の関係者で構成する「**法定協議会(※)**」を設置
- 加えて、本協議会の下部組織として、行政・交通事業者等の**実務担当者によって構成される分科会**を設置し、計画作成に向けた具体的な内容調整や、施策実施に向けた具体化・体制などについて協議・検討を行う
- 本協議会では、**分科会の協議結果を踏まえた事務局案**に対して協議を実施

<本会>

摂津市地域公共交通協議会

出席者のイメージ：

- ・ 摂津市各部署
- ・ 交通事業者
- ・ 近畿運輸局、大阪府、公募市民 等

会議公開形式：公開

- ・ 当日の傍聴可
- ・ 資料・議事録をHP掲載

・ 分科会の協議結果を踏まえた事務局案に対する意見

<分科会>

摂津市地域公共交通協議会 分科会

出席者のイメージ：

- ・ 交通事業者
- ・ 近畿運輸局 等

会議公開形式：非公開

- ・ 当日の傍聴不可
- ・ 資料等の掲載なし

・ 計画の具体的な内容検討(方針・施策等)
・ 施策実施に向けた進め方・体制の検討

第1回協議会の振り返り

第1回協議会の振り返り

<実施日時>

令和6年2月26日（月） 14:00～15:00

<内容>

- ・地域公共交通協議会の設置について
- ・規約・規程（案）の承認について
- ・役員を選出について
- ・事業計画（案）及び予算計画（案）について
- ・地域公共交通計画について

<出席者>

種別	所属	氏名
市長又はその 指名する者	摂津市 建設部	武井 義孝
交通事業者	西日本旅客鉄道株式会社	中嶋 和政
	阪急電鉄株式会社	阿瀬 弘治
	大阪モルール株式会社	藤原 智明
	阪急バス株式会社	野津 俊明
	近鉄バス株式会社	松永 智也
	京阪バス株式会社	北西 進太郎
	千里丘タクシー株式会社	松浦 宏樹
	株式会社国際興業大阪	庄司 拓也
	阪急バス労働組合	石崎 宏司
国土交通省	近畿運輸局大阪運輸支局	大石 信太郎
公安委員会	大阪府警察 摂津警察署	川面 聖

▼第1回協議会の実施状況



種別	所属	氏名
道路管理者	大阪府 茨木土木事務所	田口 靖之
	摂津市 建設部	吉田 菜津子
		平神 英彦
公共交通利用者	公募市民	林 沙也加
		森田 恵子
学識経験者	大阪大学 大学院	土井 健司
	大阪工業大学	青木 保親
		山口 行一
その他	大阪府 都市整備部	鬼追 弘臣
	摂津市商工会	島内 嘉紀
	摂津市 市長公室	衣川 智久
	摂津市 教育総務部	藤原 崇裕

分科会の協議結果

第1回分科会の実施概要

<実施日時>

令和6年2月26日（月） 15:00～16:30

<内容>

- ・分科会の進め方
- ・摂津市の計画目標・方針に関する意見交換
- ・今後のスケジュール

<出席者>

種別	所属	氏名
学識経験者	大阪大学 大学院 工学研究科 地球総合工学専攻 社会基盤工学コース	青木 保親
		葉 健人
交通事業者	西日本旅客鉄道株式会社 阪奈支社 地域共生室	中嶋 和政
	阪急電鉄株式会社 都市交通事業本部 沿線まちづくり推進部	阿瀬 弘治
	阪急バス株式会社 自動車事業本部 営業企画部 兼 新モビリティ推進部	野津 俊明
		田中 祥敬
		外村 健太
	近鉄バス株式会社 営業部	松永 智也
	京阪バス株式会社 経営企画室	北西 進太郎
	千里丘タクシー株式会社	松浦 宏樹
阪急バス労働組合	石崎 宏司	
国土交通省	近畿運輸局大阪運輸支局 輸送部門	大石 信太郎
その他	摂津市商工会	島内 嘉紀

▼第1回分科会の実施状況



【第1回分科会の意見概要】

- ・ 本計画では、摂津市の30～50年先の姿を描きつつ、まずは直近の5年間で取り組んでいくことを中心に考えていく
- ・ そもそも車がたどり着けない狭隘な道路に囲まれた地域においても、自転車やパーソナルモビリティ等を含めて移動手段を確保し、市内どこからでも目的地へのアクセスや既存交通への乗り継ぎができるようにしていく必要がある
- ・ 安威川以南はデータでは人口減少などが弱みとなっているが、事業所はこの地域に最も多く立地しており、産業としての需要が非常に高いエリアである。しかし、自家用車による通勤が渋滞発生の要因となっている可能性がある
- ・ 自転車はバスの需要を奪う可能性もあるが、乗務員不足の現状を踏まえると、自転車の活用も考えていく必要があり、バスと自転車で役割分担しながら進めていくことが必要
- ・ 駅前広場などでは自家用車が使いやすい空間となっている側面もあるため、公共交通のプライオリティ(優先度)を高め、公共交通を利用しやすい環境づくりを行っていく必要がある
- ・ 利用者の立場からすると、バスを運行している事業者がどこかよりも目的地にたどり着けるかが重要であるため、市内の鉄道・路線バスが網羅されたマップを作成する等、情報やサービスの統合を行っていく必要がある
- ・ 単に公共交通事業者や行政がサービス提供を行うだけでは使われないため、住民にも当事者意識を持ってもらい、公共交通事業者・行政・住民が一体となって公共交通を維持していくことが必要である
- ・ 各者のデータを持ち寄ってきちんと現状分析を行い、根拠をもった上で、具体策を検討していく必要がある

■第1回分科会の結果を踏まえた対応

- ・ 以下の6つの観点で計画目標を設定し、30～50年先の目標と5年先の目標(当面のめざしどころ)を整理
①ラストマイルの手段確保 ②公共交通の円滑化 ③自転車の活用 ④道路空間のプライオリティ見直し ⑤公共交通の情報統合 ⑥住民の意識向上
- ・ 現状データの分析等を踏まえて、目標達成に向けて必要となる施策イメージ・評価指標(KPI)イメージを整理

第2回分科会の実施概要

<実施日時>

令和6年4月25日（木） 14:00～16:00

<内容>

- ・第1回分科会の振り返り
- ・計画目標及び想定される施策に関する意見交換
 - －計画目標・想定される施策について
 - －KPI（評価指標）について
- ・今後のスケジュール

<出席者>

種別	所属	氏名
学識経験者	大阪大学 大学院 工学研究科 地球総合工学専攻 社会基盤工学コース	青木 保親
		葉 健人
交通事業者	大阪モルレル株式会社 運輸部 業務課	藤原 智明
	阪急バス株式会社 自動車事業本部 営業企画部 兼 新モビリティ推進部	田中 祥敬
		外村 健太
	近鉄バス株式会社 営業部乗合営業課	寺井 孝次
	京阪バス株式会社 経営企画室	北西 進太郎
	千里丘タクシー株式会社	松浦 宏樹
	株式会社国際興業大阪 摂津営業所	庄司 拓也
阪急バス労働組合	石崎 宏司	
道路管理者	大阪府茨木土木事務所 地域支援・企画課 企画グループ	田口 靖之
国土交通省	近畿運輸局大阪運輸支局 輸送部門	大石 信太郎
その他	摂津市 生活環境部 産業振興課	緒方 聡輔

▼第2回分科会の実施状況



【第2回分科会の意見概要】

- ・ 6つの観点で計画目標を整理しているが、「摂津市として公共交通をどのように確保・維持していくのか」といった前提の考え方も示した方がよい
- ・ 抽象的な表現となっている計画目標は、どういう状態を目指そうとしているかがイメージしづらいため、見直しが必要
- ・ 計画目標ではタクシーが触れていないが、タクシーも高齢者の移動を担う公共交通のひとつであるため、市民にきちんと認識してもらうためにも、計画の中に盛り込んだ方がよい
- ・ 交通量自体を減らさないと渋滞解消は難しいという前提はあるものの、事業所までの通勤や日中の営業車の需要を路線バスやその他のモビリティに取り込んでいくことで、渋滞解消を図っていくことが可能であると考えられる
- ・ また、それを住民も利用できる形とすることで公共交通の利便性向上も図れるとともに、事業者にとっても駐車場スペースを確保しておく必要がなくなるため、別の用途への活用も可能となり、事業拡大にもつながっていくと考えられる
- ・ 自転車は、単にバスの代わりとして活用するということだけでなく、自家用車を利用している人が自転車で最寄りのバス停まで行きバスに乗り継ぐといった形で、バスの需要を減らさないようにする考え方が基本になる
- ・ 路線バスのサービス低下は、利用者減少に伴う運賃収入低下が大きな要因であるため、運転手不足のみに焦点をあてた記載はそぐわない



■第2回分科会の結果を踏まえた対応

- 30～50年先の目標と5年先の目標(当面のめざしどころ)の再整理、表現見直し
- 目標達成に向けて必要となる施策イメージ・KPIイメージの再整理

参考 一 第1回分科会の協議資料(抜粋)

摂津市における公共交通の課題

- 人口動態や地形、施設立地、交通状況等の現状分析から、摂津市としての**強み・弱み**を整理したうえで、社会情勢や技術開発等の状況を踏まえ、**30～50年後のエリアごとの仮説**を整理

◇摂津市の現状分析(強み)

- ・大阪都心から近く、大阪中央環状線をはじめとした**広域道路ネットワークが確保された優れた立地**
- ・平坦な地形のため**自転車や徒歩での移動が容易**で、スーパーなど生活必需施設が程よく立地し、**市内の買い物のカバー率が高い**
- ・安威川以北は鉄軌道駅を軸にしたまちが形成され、**自家用車に頼らない生活が可能**。安威川以南は大阪高槻線や八尾茨木線、茨木寝屋川線等の広域幹線道路が充実し、**市内外のアクセスが良好**

◆摂津市の現状分析(弱み)

- ・安威川以南は鉄軌道駅から離れた地域が多く、**自家用車に頼らざるを得ない**地域となっている
- ・広域幹線道路や鉄道交差部等での**慢性的な渋滞**などにより、路線バスは**定時性・速達性が確保できず利用率が低い**
- ・**渋滞を避ける車が狭隘な地区内道路を通過**し、十分な歩行空間が確保されていない道路が多く危険

想定される摂津市の将来の状況(仮説)

- 安威川以北 -

- ・鉄軌道駅が4つあり、**交通利便性が高い**うえ、**駅前再開発等により駅周辺が整備**され、さらに利便性の高い街に
- ・**人口は微減**に収まるが、**高齢化は進展**
- ・広域幹線道路を含め**市内の道路整備**が進み、円滑な交通が確保され**駅へのアクセスが向上**
- ・鉄軌道駅が近いことから**今後も通勤・通学などは電車が主な移動手段**となり、市内道路の整備により安全な歩行空間が確保されているため、**歩行者が歩きやすい街並み**が形成

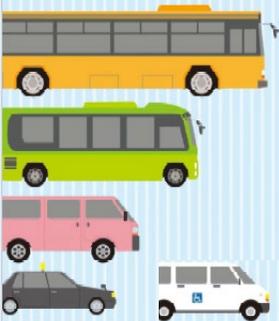
- 安威川以南 -

- ・人口減少に伴い**移動の全体量が減る**が、大阪中央環状線等の広域幹線道路が複数あるため、**物流等による交通量は依然多い**
- ・広域幹線道路の整備が進み**生活道路への通過交通は緩和するが、依然通過交通により危険な状態**
- ・高齢化が進み、買い物などでは市外への移動よりも**生活圏内における移動の割合が高くなる**
- ・広域幹線道路整備や、連続立体交差により**交通渋滞が解消**し、烏飼地域から阪急摂津市駅・JR千里丘駅への**バス交通の速達性が改善**
- ・通勤・通学による移動も一定数あるが、生産年齢人口等の減少により、**路線バス等の利用は少なくなり**、確保・維持が難しい状況

目指す将来像と公共交通ネットワーク

○想定した将来の市民移動ニーズ・手段を踏まえ、**公共交通の目指す将来像とネットワーク**を整理

目指す将来像(30~50年後)



誰もが気軽に出かけられる、フラットなまち

平坦な地形を活かした多様な交通手段の展開により、ふらっと出かけられる機会を創出

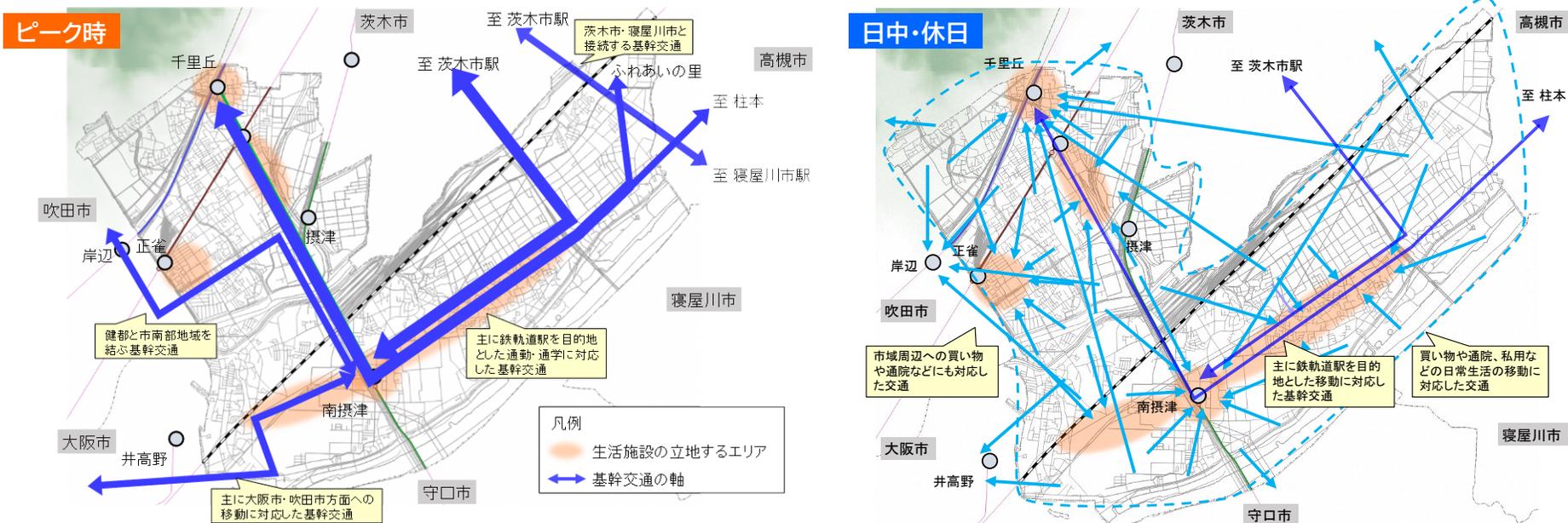
◆短期的な取組(直近5年間)

1. 路線バスの維持・確保
2. セッピー号を含む近距離移動の再編
3. 近距離移動手段の検討

+ POINT

分野横断的な検討
(福祉、教育など)

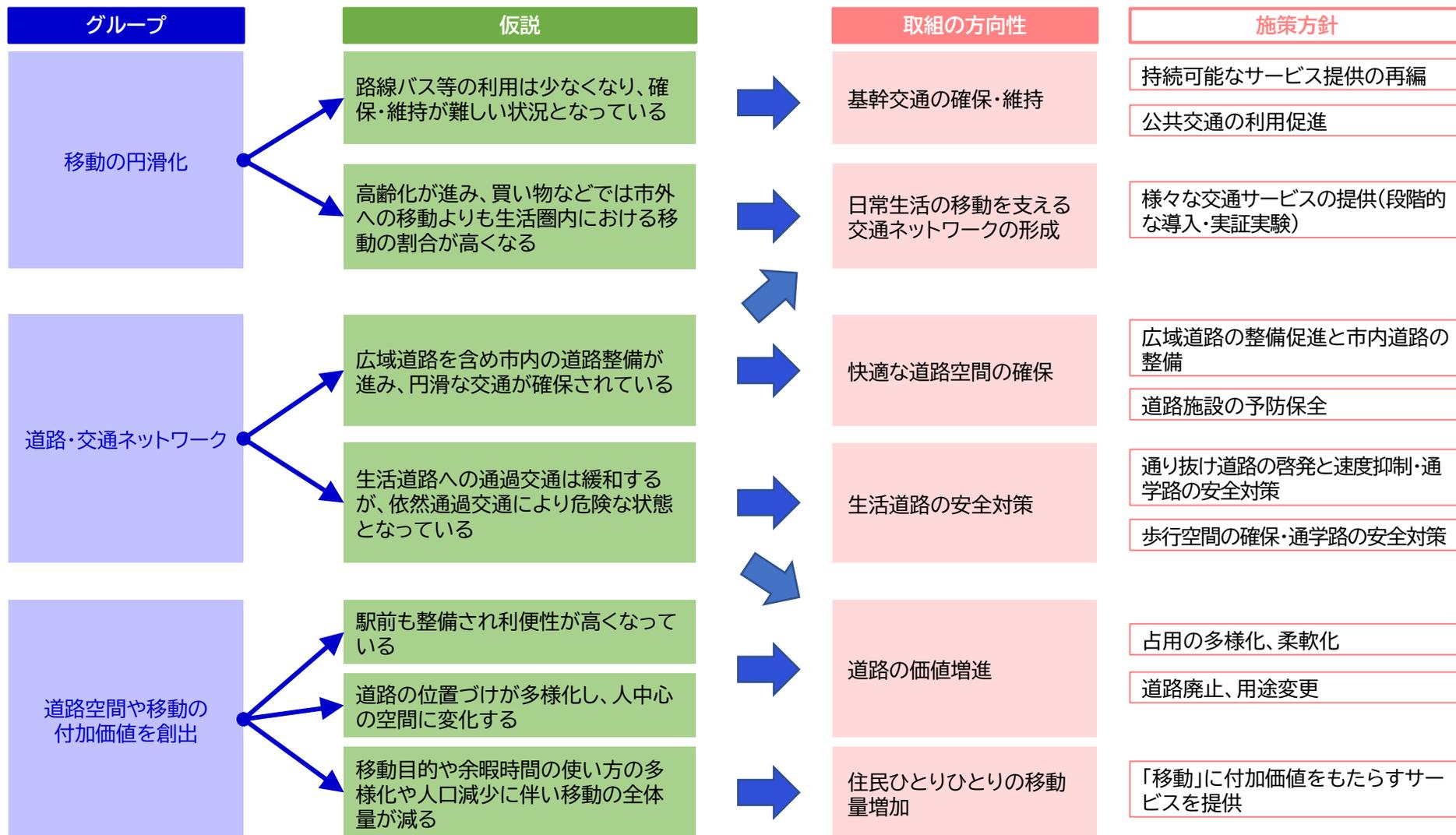
目指す公共交通ネットワーク



取組の方向性と施策方針

○30～50年先の仮説を踏まえ、**取組の方向性と施策方針**について整理

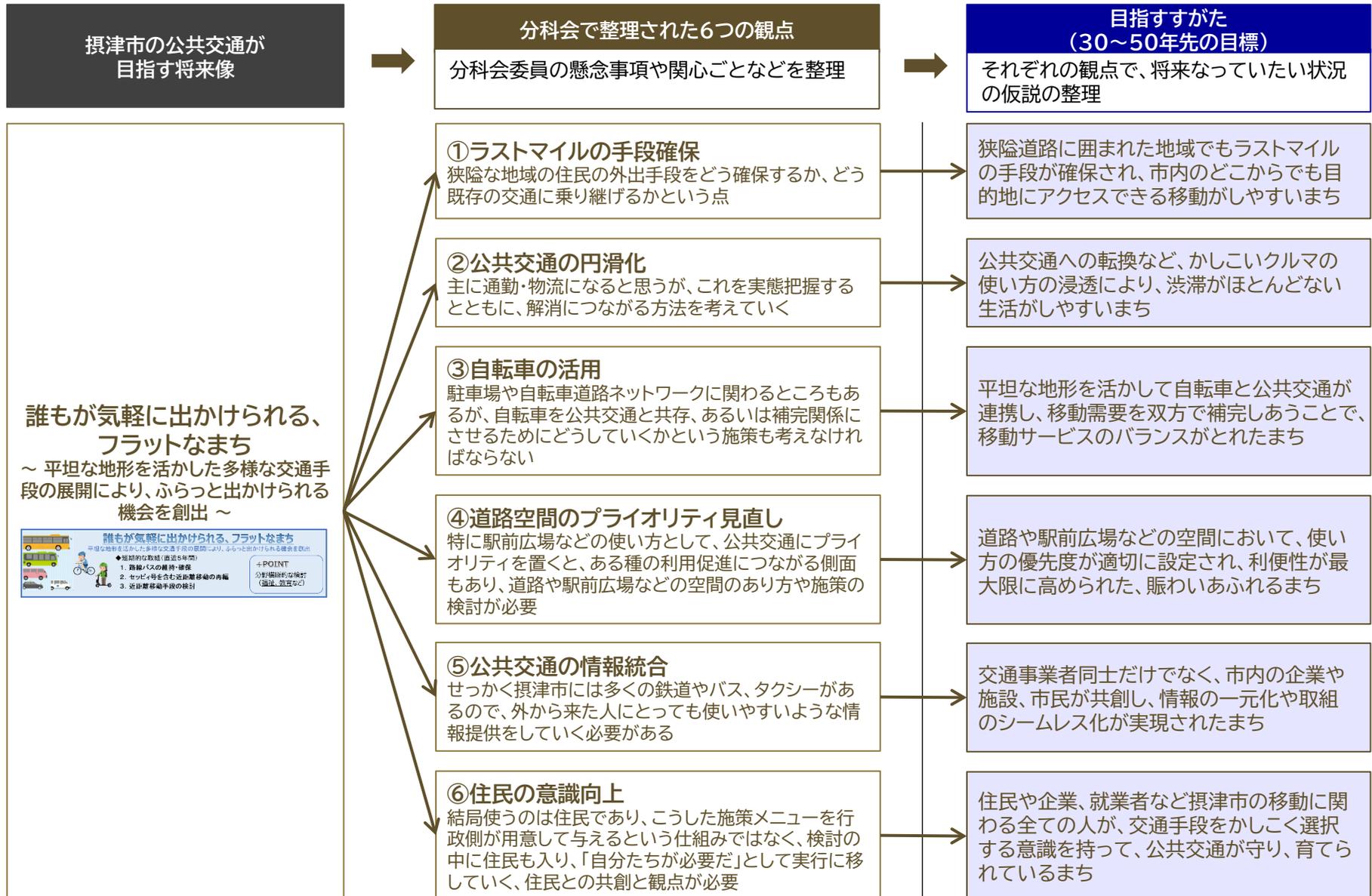
○地域公共交通計画では**主に「移動の円滑化」に係る取組**が中心となるが、道路の整備や移動の価値創出についても必要に応じて取り組んでいく



参考 一 第2回分科会の協議資料(抜粋)

摂津市が目指す30～50年先の姿・目標

○第1回分科会で整理された6つの観点を踏まえ、**30～50年先の目指す姿・目標**を再度整理



※ラストマイル：モノ・サービスが到達する最後の区間のこと。公共交通分野においては最寄り駅・バス停から自宅・目的地までの区間を指す。本計画ではファーストマイルを含む用語として整理

当面5年先の目標及び想定される施策

○30～50年先の目指すすがたを踏まえ、**当面の目指しどころ**として、**まずは5年先の目標**について整理

○そして、**その5年先の目標を達成するために、それぞれの観点で想定される施策**を整理

